



## 卷頭言

西川, 榮一

---

**(Citation)**

海事資料館研究年報, 28

**(Issue Date)**

2000

**(Resource Type)**

other

**(Version)**

Version of Record

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005706>



# 巻 頭 言

海事資料館館長 西 川 榮 一

この2年ほど、この巻頭言では海事資料館所蔵資料の電子データベース化と目録づくりのことを述べていますが、今回もその報告です。

海事資料館の資料をきちんと整理する作業は、最後まで見通せば、以下のような諸段階が考えられるでしょう。

## <第1段階>

11. 所蔵資料1点ずつに名前を付けること
12. 外観をデジタル写真にしてデータベースに組み込むこと
13. 分類項目システムをつくり、各資料を整理して目録にすること
14. 目録と資料現物を一対一に対応させてラベリングすること

## <第2段階>

21. 電子化目録を資料館ホームページに載せて閲覧可能にすること

## <第3段階>

31. 重要な資料には解題をつけること

## <第4段階>

41. ラベリングにしたがって資料保管場所を整理整頓すること（ただ、このためには保管建物が必要ですが、今はそれがありません）

今回の電子データベース化と目録づくりの計画は第2段階、できれば多少なりとも第3段階まで進められればという目標で作業が進められています。最も時間と労力がかかるのは[11]と[12]です。とくに写真を撮るのは、大きな模型ともなるとなかなか大変な作業です。所蔵資料数は約3,000点といわれているのですが、書誌類や写真絵はがきなどが結構たくさんあることもわかってきて、3,000点以上ありそうなのがわかってきています。

海事資料館とは別ですが、附属図書館の方に「渋谷文庫」という約4,000点からなる旧海軍造機技術資料があります（その概要はこの年報でも過去に紹介されています）。この資料は目録もあり、<第4段階>まできちんと整理されていますが、実はこの目録づくりには筆者を含め杉田、石田憲教授らも参加しました。「渋谷文庫」は全部書誌・書類・図面などであり、写真も必要なかったのも、海事資料館資料の目録づくりと比べれば簡単だったはずですが、それでも数年の時間とかなりの予算が必要でした。

その経験を思うと海事資料館の資料目録づくりは、大きなプロジェクトといえます。いま作業は2年目ですが、本館収蔵資料については稲垣さんらの努力でかなり進行し、一部は<第2段階>まで進められ、試験的ではありますが、海事資料館のホームページで見ることができるようになっています。興味ある方はのぞいてみてください。もっと厄介で多数が収蔵されている臨時倉庫の資料はまだこれからです。

といったところが現状で、道なお遠しといった段階ですが、しかし、海事分野の大学としてこのプロジェクトは意義あるものと考えています。専門委員の先生方、稲垣さんや図書館職員の方々のご努力をお願いして、この巻頭言で

“目録ができました！”と報告できるように作業を続けたいと思っています。皆さまのご支援をお願いする次第です。